

## 編集後記

『部落解放研究』五号をお送りする。今、私たちの前に、同和行政が解体の憂き目に瀕し、同和教育が後退・拡散し、部落問題研究が押し流され、部落解放運動もまたそれらにきちんと抗えていないという危機的状況がある。本号は、このような時代認識のもとで編集された。本号は、小特集を二つ組んだ。一つ、部落解放研究をめぐって。小森理事による当研究所の課題提起も、人権擁護推進審議会の批判も、確認・糾弾会の分析も、資料分析による歴史研究も、いずれの論文も、今日の状況に抗うものとして時を得たテーマ設定であると考える。部落差別の正鵠な現状認識と、それを可能にする立脚点と理論。当研究所もまた、この出発点に回帰し、透徹した現状批判に裏打ちされた解放理論の構築に向けて、奮闘しなければならない。今、当研究所は、本格的な体制づくりに入っている。

二つ目の小特集、現代の思想状況の批判として、天皇制批判、および歴史隠蔽の批判を採り上げた。いずれも、今日の危機をさらに広く暴くものとして、本誌の内容を豊かにしている。天野論文は、実践的な天皇制批判の報

告として多くのものを教えてくれる。金子論文は、自由主義史観およびその周辺の批判として多くのものを教えてくれる。また、新中論文は、中国での旧日本軍の遺棄毒ガス問題の当事者からの証言を中心に、旧日本軍の告発に止まらず、私たち自身の歴史認識を深く問うている。それは、金子論文の論旨に見事に繋がっている。

本誌は、部落差別実態の分析と解放理論の構築を中軸としながら、現代日本および世界の人間的状況の批判を通じた思想形成をも目的としている。そのためには、執筆していただける人のネットワークをさらに広げ、多くの読者にとって、本誌が広島から全国に撃って出る思想および運動の媒体となることのできるような役割を、当研究所は担わなければならない。けだし危機は深く、掘り下げ提起すべき問題は、あまりにも多い。(A)